

## 【別紙様式2】

# 達成感や満足感を味わい、進んで 運動に親しむ折多っ子の育成

## 阿久根市立折多小学校

全校生徒数	80人(男子38人 女子42人)		
全クラス数	7	教職員数	15
運動部活動数		運動部活動参加率	

### 取組時の課題と目的

#### 1 取組時の課題

本校は、朝の体力づくり等を通して、「チャレンジかごしま」学校賞を3回受賞している。しかし、体力・運動能力調査結果や児童へのアンケート調査結果からボール運動領域を苦手に行っている実態があった。そこで、ボール運動領域についての指導法の改善や工夫、また、運動好きな子供の育成に取り組んでいきたいと考え、本主題を設定した。

#### 2 取組の目的

- (1) 指導過程を工夫し、自己の課題に応じた運動の楽しみ方を身に付けさせ、運動の楽しさや喜びを味わいながら体力を向上させる。【授業の工夫・改善】
- (2) 教科外体育を積極的に推進し、子供たちが興味をもって取り組める運動の機会を確保し、主体的に進んで運動に親しむ意欲や体力を高める。【運動機会の確保】
- (3) 家庭や地域との連携を積極的に推進し、家庭や地域においても運動に取り組める機会を確保し、運動の生活化につなげる。【家庭・地域との連携】

### 取組の内容

#### 1 授業の工夫・改善

- (1) 運動量を確保する基本的な指導過程の確立
- (2) 子供が主役となる学び方の工夫
- (3) 指導と評価の一体化

#### 2 運動機会の確保

- (1) 教科外体育の充実・実践（朝の体力づくり・パワーアップタイム・折多体操等）
- (2) 体育行事の充実（各種大会への参加、体力アップ！チャレンジかごしまへの申告等）
- (3) 固定施設の整備・活用

#### 3 家庭・地域との連携

- (1) 「一家庭一運動」の推進（カード作成・配布、アンケートの実施）
- (2) PTA活動との連携（親子運動教室・親子ふれあい球技大会等の開催）
- (3) 地域人材活用の推進（陸上教室20時間）

#### ●工夫したこと

- ① ボール運動領域における一単元・一単位時間の指導過程を作成した。

- ② 子供たちが主役となる学び方の工夫として、言語活動・プラスの言葉掛け・子供主体の練習を充実させた。
- ③ ボール運動領域における指導と評価が一体化した計画を作成した。
- ④ 朝の活動を見直したり、パワーアップタイムに「折多体操」「折多トレーニング」を取り入れたりした。
- ⑤ 運動の日常化並びに健康づくりの視点から「一家庭一運動」に取り組み、家庭との連携を図った。
- ⑥ 地域スポーツ人材を20時間活用（陸上教室）した。

### 取組の成果

- ① 体力・運動能力調査から、「ソフトボール投げ」等4種目で全国平均を大幅に上回ることができた。
- ② 指導過程及びそのねらいが明確になったことで、意図的な指導計画が作成可能になり、適度な運動量が確保され、密度の濃い授業が展開されるようになった。
- ③ 評価規準を明確にすることで、子供の実態を的確に把握し、次の指導に生かすことができた。
- ④ 朝の活動を見直すことにより、「チャレンジかごしま」学校賞を受賞することができた。また、「折多トレーニング」を取り入れたことで、その単元に必要な動きの基本を体感したり、動きそのものを身に付けたりすることができた。
- ⑤ 「一家庭一運動」の取組により、親子のコミュニケーションが深まり、運動に対する関心が高まった。
- ⑥ 地域スポーツ人材活用により、陸上運動の指導の充実が図られた。運動会・陸上記録会・校内持久走大会では、学んだことを生かして記録を向上させることができた。

### 今後の課題

- ① 評価方法と評価の見取り方については、実践的で明瞭なものとなるよう今後も研究を深める必要がある。
- ② ICTの効果的な活用について、更に研修を深める必要がある。
- ③ 体育科授業における主運動につなげるための折多トレーニングや、ワークシート、グループ活動、ICT活用、場の設定等について、子供の実態に応じた工夫を今後も図る必要がある。
- ④ 「一家庭一運動」の家庭での取組状況は、家庭によって差がある。手立てを工夫し、更に活性化を図っていきたい。